

茨城県大子町

まちの資源と古民家を活用した新しい場づくり

Iプロジェクト背景

茨城県大子町は栃木、福島の県境に位置し、日本三大名瀑「袋田の滝」をはじめとした豊富な自然資源に加えて、温泉街・オートキャンプ場などの観光資源も豊富な地域です。

2016年にはNPO法人森林セラピーソサエティに「森林セラピー基地」と認定され、都市部企業の健康経営や福利厚生需要に応えられるプログラムの提供も可能になりました。

基幹産業の観光にさらに力を入れるため、築150年近い古民家を飲食宿泊機能を有した施設へと改装し、森林セラピーを中核とした町内資源とともに活用を目指されています。

しかし、古民家はまちの中心部からの距離もあり、他の観光施設も周囲に少なく周遊での訪問は難しいと想定されます。

そのために、施設自体を目的地とできるような魅力の開発が必要不可欠となります。

II目指すゴール

まちの自然資源・観光資源や森林セラピー基地という強みを活かしながら、この古民家施設を多くの人に愛され、利用される場所へ磨き上げていく。



わざわざ足を運ぶ、魅力ある場の創出

まちの資源を活かしながら、ハード、ソフトの両面から施設を拠点とした顧客体験を検討し、その価値を創出するための開発・販促施策を実施して、施設の持続的な運用を目指します。

III事業パートナー(最終提案先)



大子町 町長をはじめ古民家の活用に関わる大子町役場事業担当者、及び森林セラピー協議会の皆さまに向けてプランを提案させていただきます。

地域との協働、事業化に向けた資金やリソース調達は(株)さとゆめが伴走していきます。